

# JESCO 豊田PCB廃棄物処理 事業だより(No.131)

## 1. PCB廃棄物保管事業者(少量)の皆さまに対する説明会について

豊田PCB廃棄物処理施設では少量保管事業者(保管台数が20台未満の事業者)の皆さまに向けてPCB処理に関する説明会を定期的で開催しています。

2月は16日に静岡県伊豆市、17日に静岡県沼津市で説明会を開催し、2日間合わせて87社の事業者の方々にご出席いただきました。

少量保管事業者の皆さまに向けての説明会は3月にも岐阜県内で3回(高山市、多治見市、大垣市)、三重県内で3回(鈴鹿市、伊勢市、津市)開催する予定です。



## 2. 総合防災訓練の実施

2月19日に総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練は、豊田市消防本部、南消防署及び西分署との合同訓練で、処理棟6階の分析室で溶剤が漏洩、引火して火災が発生したとの想定で、初期消火、避難誘導、通報、救護・救出等の総合防災訓練を行いました。



当日は、南消防署の梯子車で怪我人を6階から救出する訓練も行い、緊張感のある訓練となりました。

今後もJESCO及び運転会社の自衛消防組織による防災活動を円滑に推進するための防災訓練を定期的に行い、防災意識の高揚を図って行きます。

## PCB処理事業紹介シリーズ 第13回

今回は真空加熱処理設備をご紹介します。

この設備は、PCB油がしみ込んだ含浸性部材を処理する最後の工程です。トランスやコンデンサを構成する部材のうち、PCBが内部までしみ込んでいる素子、絶縁紙、木、樹脂等を含浸性部材といいます。



含浸性部材を入れる加熱カゴ

真空加熱炉を出た窒素ガス中に含まれるPCBは冷却した油と接触させることにより油側に回収し、最後に窒素ガス中に残った微量のPCBは、活性炭にて吸着回収します。

### ※参考※

- ①一回に処理する含浸性部材の量は、180～360kgです。
- ②一回の処理に要する時間は、含浸性部材によって異なりますが、おおよそ1～2日です。

乗用車一台が入る大きさの真空加熱炉の中で、含浸性部材を窒素中で加熱し、PCBを揮発させた後、更にPCBを窒素と共に真空ポンプで吸引、炉の中の圧力を低下させ真空状態にする処理を繰り返すことで、含浸性部材の内部までしみ込んでいるPCBを引き出し、PCB濃度を合格基準値以下に下げていく工程です。

※日本の合格基準値は、諸外国に比べて、とても厳しい基準となっています。



加熱カゴを真空加熱炉へ

豊田PCB処理事業所では、施設紹介ビデオのご視聴や当事業所内を御覧いただける見学コースを設けております。見学をご希望の方は、下記電話番号にお問い合わせ下さい。



デジ丸

問い合わせ先



アザラシのピーちゃん

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO) 豊田PCB処理事業所 0565-25-3110

【豊田PCB処理事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>